

## 思考力・判断力・表現力等

～ 思考を広げたり深めたりするために～

### 課題について自分自身の考えをもつ時間の確保

児童生徒が自分自身の思いや考えをもたずに授業が進行すると、主体性は発揮されず、「問い」は生まれにくくなります。児童生徒が主体的に学習する授業を展開するために、それぞれの思いや考えをしっかりとたせる時間を確保しましょう。

#### こんな授業になっていませんか

△課題に対する個々の考えをもたせる時間が確保されないまま授業が進行している。

#### ○一人で考える時間が「問い」の源泉

学習対象が魅力的で学習意欲を喚起させるものであったり、課題を解決する必然性が児童生徒の中に生まれるような教材であると、児童生徒の主体性が引き出されます。しかし、こうした魅力的な学習課題が設定できたとしても、児童生徒に自分自身の考えをもたせないまま授業を展開していくと、児童生徒は次第に意欲や主体性を失っていきます。

個々の児童生徒が「私はこう考えた」「私はこの方法がいいと思う」など自身の考えをもち、それらを伝えることで「みんなはどう考えたのかな」と友達の意見に意識が向きます。さらに、友達の考えによって自身の考えが揺さぶられたり、新たな「問い」が生まれたりします。

「問い」の源泉は、自分の思いや考えを「一人で考える時間」にあるといえます。



### 学習のねらいの達成に向けた交流場面の設定

学習のねらいの達成に向けた思考力・判断力・表現力等を育むためには、自分の思いや考えを他者に説明したり、話し合うことを通してよりよい考えに導いたりするなど、対話的な活動の一層の充実が求められます。しかし、交流させれば学習のねらいが達成できるというものではありません。以下の課題点とその解決の手立てについて工夫し実践を積み上げていきましょう。

#### こんな授業になっていませんか

△ペアやグループで交流させることが目的化している場合がある。

△交流が、個々の一方的な発表にとどまり、思考が練られる対話になっていない。

#### ○ねらいに即した交流場面の設定

ペアやグループでの交流は、授業のねらいに即して行われるものですが、それ自体が目的化している授業も少なくありません。

交流場面を設定する際は、児童生徒が「友達と協力したい」「話し合うことで解決の見通しがもてそう」といった、交流することの必然性を引き出す手立てを工夫し、授業のねらいに即した場面を設定しましょう。

#### ○ペア・グループにおける対話の充実に向けて

「問い」が生まれる授業において、対話的な活動の充実は欠かせません。しかし、ペア・グループでの対話の場面で、児童生徒が自分の意見や感想を述べたり、説明したりすることに終始し、双方向の対話になっていない場合も見受けられます。こうした課題は、個々の児童生徒が自身の思いや考えを伝えることのみで意識がおかれ、友達の話を傾聴するという、対話において最も大切な態度が育成されていないことも要因の一つです。

学びが深まる対話にするためには、対話を通して解決を図りたいと思う課題が設定されていることが必要です。さらに、他者の話をじっくり聴いて共感したり、疑問点について質問したりするなどの聞き手としての能力を育てることを意識しながら日常的に指導していくことも必要です。

